

第3回総合戦略推進アドバイザー懇談会議事録

日程	令和7年2月28日(金)～3月7日(金)
場所	美濃加茂市役所及び訪問先
委員	<p>【産】(株)フジイ 代表取締役 金森 薫氏</p> <p>【労】(株)濃飛葬祭 代表取締役 鈴木 哲馬氏</p> <p>【学】中部学院大学短期大学部幼児教育学科 教授 杉山 祐子氏</p> <p>【学】元可茂教育事務所所長・元太田小学校校長 三尾 不二男氏</p> <p>【学】元加茂高等学校校長 平野 弘氏</p> <p>【金】東濃信用金庫美濃加茂支店 支店長 佐藤 幸一氏</p> <p>【言】(有)コニー 代表取締役 伊佐治 栄子氏</p> <p>【言】みのかもフリーペーパー歩好里人 代表 安藤 摩里氏</p> <p>【国】のぞみ教室 主任指導員 藤木 燦斗良 春美氏</p>
事務局	経営企画部 企画課

○第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

アドバイザーと面談し、第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関する意見をいただいた。

【アドバイザーからの意見】

- ・空き家対策(バンク)について、川辺町、八百津町などは積極的に取り組んでいる印象である。実際に空き家所有者は維持管理に困っている。所有者は自分から行動をすることがほとんどないため、空き家活用が進まないが、声を掛ければ所有者もその気になって案件が動いていくと思う。近年、住宅価格がかなり高騰してきた中で、これからは中古住宅の需要も高まるのではないかと思う。車の買い替えみたいに中古住宅を購入するケースが増えてもおかしくない。
- ・本戦略には市内事業(商工業等)に関連する事業があまり無いように感じる。若い世代に定住してもらうためには、市内で雇用できる体制を整えることも重要だと思う。産官学金・・・多様な人とワンテーブルで様々な議論ができるとよい。
- ・外国人児童で中学生頃の年齢から日本に来て、高校進学を希望する子どもがいる。本市が取り組んでいる「のぞみ教室」事業は、小学生頃からの支援というイメージがあり、中学生頃からの年齢で日本に来た子どもが、日本語を学ぶ場所があまりない。民間の日本語教室で学ぶこともできるが、当然利用料金が高くなってしまう。もう少し年齢の幅を広くした支援体制が実現できると良い。
- ・ある団体の集まりで、「美濃加茂市は観光に力入れてないよね」という話があった。インバウンド需要が高まっている中で、市内事業者の中にはインバウンドを獲得したいと積極的に取り組んでいるところもある。そういった前向きな思いの企業をどのように支援していくのか…。行政なのか？観光協会なのか？商工会議所なのか？などの議論があるが、観光業への支援も必要なのではと考える。
- ・リオラで開催したパソコン講座が盛況で、30代、40代の女性が多く参加された。子育てが少し落ち着き、再就職の際にパソコンにスキルを身につけたいという方が多くいた。ただ、20代、それ以下の世代はスマホやタブレットの活用が当たり前になっており、パソコン操作が分からないという人もいる。

今後は時代の変化に対応した取組が必要である。

・外国人児童で不登校になっているこどもはいると把握しているが、1人、2人程度である。理由は、必ずしも「日本語についていけないから」というわけでは無く、日本に来て家族と過ごす時間が減り(母国では家族と過ごす時間が多い様子)、精神的に不安を感じてしまい、不登校になってしまったというケースもある。

・日本で生まれた外国人児童であっても日本語を話せないケースもある。幼少期は外国人が経営している保育施設に預けているが、日本語の勉強はしないため覚えられない。両親も、家を建てて長く日本に住む予定であっても、スマホ等のデジタル機器が進んでいるため、日本語を覚えなくても普通に生活ができる。日本語を勉強する必要性があまり感じないのかもしれない。

・以前、ビジネスコンテストに参加したときに、美濃加茂市からの発表者の多くが女性であったと記憶している。また、ライオンズクラブの会員も女性の方が多く加入しており、女性が活躍しているまちだと感じる。女性活躍推進事業を加えることに全然問題はないと考えるし、美濃加茂市のこれまでの実績であり特色でもあるため良いと思う。

・第3期総合戦略の目的や基本方針について、とても分かりやすく理解しやすい。市民の方も同じだと思う。ただ、取り組む個別事業について、【事業編】で目的や内容は理解できるが、担当課がどのように事業に関わっていくかが見えてこない。市役所職員も頑張っている事業に取り組んでいるため、そういった市職員の頑張っている姿を市民に見せることができると良い。

・市役所は行政機関として市民に一番近く親しみやすい機関だと思う。市役所職員に対する市民の評価制度などがあると、市民の市役所に対する意識・関心が出てくるかもしれない。

・保育園、幼稚園等において、子どもたちを自由に行動させる方針の園もあり、小学生になったときに、いきなり席を立てて教室から出て行く(遊びに行く)など自由すぎる生徒もいる。それを教育というのかしつけと判断するのが難しいところであるが、大人になっていく段階の中で、一般的常識を身につける必要があるが、誰がどの段階で教えていくのか議論することが必要である。

・美濃加茂市は教育・子育てに関して一生懸命取り組んでいると感じる。新たに不登校児童の支援事業が追加されたが、一人でも多くの若者が社会への一歩を踏み出してほしい。

・今は年内に入試を終える(総合型、推薦)生徒の割合が増えおり、3月末までを想定して受験を行う生徒の割合は減ってきている。

・昔は「とりあえず大学に進学する」という感覚が強く、大学に進学できなかった場合に専門学校に進学するという感覚であったが、大学に合格する学力を持っている生徒でも、自分の進みたい道を明確に持って専門学校、美容師、警察等に進学する。

・大学、専門学校ともに関係者が高校まで来て、説明会を開催してくれる。ネットを含め、入手する環境がかなり充実している。

・進路相談の際には、「学習環境の濃度」に関する視点も取り入れながら説明している。例えば、大規模の大学で、1人の教授に対して100人の生徒が講義を受けるよりも、小規模の大学で1人の教授に対して10人の生徒が受講する場合の方が、より中身の濃い学びを得ることもある。

・弊社は女性の従業員が多いが、子どもが不登校で急に仕事を休まなくてはならないというケースが多くある。他の従業員でお互いをカバーしながら仕事を回しているが、利益を生まなければならないという観点では、決して効率が良いとは言えない。ただ、従業員が一番の財産なので、長く働いてもらえるような環境づくりを意識している。そういった中で、不登校生徒の支援事業についてはぜひとも注力してほしいと考える。